

ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》2011 ＜8月26日(金)～28日(日)＞

開催中、阿倍野区民センター 大ホールにて入賞作品を上映します。

今年で7回目をむかえるヒューマンドキュメンタリーコンテスト。全国各地から毎年、多数の応募作品が集まります。今では、このコンテスト出身のドキュメンタリー映像作家も何人か誕生しています。「ヒューマン」を描いていれば、どんな作品でもOK…。我こそは!!と思う方は、ぜひ!!

ヒューマンドキュメンタリーコンテスト 第1回(2005年)～第6回(2010年)までの、最優秀賞受賞作品を紹介します。

2010年 最優秀賞

「感謝一筋～片井さんの鍛冶屋“鉄”学～」(16分30秒) 制作者 西村 明弘

かつて「むらの鍛冶屋」でも親しまれ、各地で槌音を響かせた鍛冶屋。今ではその音を聞くことはほとんどない。京都府亀岡市に住む最後の野鍛冶職人、片井操さん。その道に入って65年になるが、その間、時代の流れに翻弄されながらも、人々に知られることなく小さな仕事場を地道に守り続けてきた。2009年、片井さんの仕事に転機が訪れた。それから、片井さんは再び野鍛冶職人として活躍することとなった。どんな苦難にも「感謝一筋」と説く片井さんの仕事と“鉄”学を追った。

2009年 最優秀賞

テーマ「人と自然と」 最優秀賞受賞

「アザラシに揺れる村」(20分) 制作者 牧野 竜二

北海道稚内市抜海村にはアザラシが何百頭も来ることで有名だ。アザラシは観光としても利用され、観光客の反応はとも良い。しかし一方でアザラシは漁業被害をもたらす。なぜアザラシは抜海村に来たのか。謎を解明するうちに、我々人間の生き方について見直すべき事柄に行き着く。便利な世の中を何気なく生きている私たちですが、思いもよらない場所が様々な影響を与えているということを知ってもらいたくて制作しました。

2008年 最優秀賞

テーマ「日常」 最優秀賞受賞

「学校を辞めます—51歳の僕の選択」(16分30秒) 制作者 湯本 雅典

僕は51歳で東京都の公立小学校の教員を自主、中途退職した。それは、本意ではなかった。僕にとって、毎日学校に行くことはあたりまえの「日常」だった。しかし、それが急にできなくなる事態が襲ってきたのである。この作品は、退職するまでの一年半を記録したビデオである。

2007年 最優秀賞

テーマ「居場所」

「姉日和」(20分) 制作者 和田 香織

私の姉は28歳。現在付き合っている彼氏は、アメリカ人である。付き合ってから1年。彼氏の引越しを機に、一緒に住むことを決める。しかし、それに難色を示す家族。彼氏と家族の間で揺れる姉。姉が出した決断は?? 姉を撮ったセルフドキュメンタリーです。迷ったり、悩んだりしながらも、自分の幸せに向かって、つき進み成長していく姉と、見守る家族の姿を描けたらと思い制作しました。

2006年 最優秀賞

テーマ「人間」

「天神の響」(20分) 制作者 増田 正吾

この「天神の響」は、日本三大祭の一つ、天神祭にカメラを向けたものです。当初、僕は「天神祭」を撮影しようとしていました。しかし、大阪天満宮の方や天神祭太鼓中の方と話をするうちに本当の魅力は祭に参加する人々にあるんじゃないか?と思い始め、「天神祭」を通じて「人間」を撮影するように心がけました。そうして生まれたのがこの「天神の響」です。祭に魂をかける人々の情熱を感じていただければ嬉しいです。

2005年 最優秀賞

テーマ「阿倍野の記憶・私の記憶」

「羽包む」(20分) 制作者 中井 佐和子

この作品は私にとってとても身近な世界を写したものです。そしていま私は東京で就職してなべっちや当時のクラスメイト達とも遠く離れていますが、「羽包む」をみると高校時代のみんなや自分に会えるような気がします。私の目にしか映っていなかった光景を、作品にすることで誰かが見て、何かを感じてくれる。そのことがとても新鮮でした。

主催：ヒューマンDFプロジェクト

【作品送付先・問合せ】ヒューマンDFプロジェクト

大阪事務局／〒540-0037 大阪市中央区内平野町2-4-9 タカオカビル701 (クリエイティブアイ内)
TEL：080-6180-1542 FAX：06-6945-1177

東京事務局／〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目3番7号 青山Nブリックビル3階 (いせフィルム内)
TEL：03-3406-9455 FAX：03-3406-9460

http://www.hdff.jp E-mail：info@hdff.jp

※E-Mailでの情報提供をご希望の方は、上記アドレスまでその旨を送信してください。